

育心拓夢

愛媛県総合教育センター所報 No.162
(令和2年3月10日発行)
<https://center.esnet.ed.jp/>
〒791-1136 愛媛県松山市上野町甲650番地
TEL 089-963-3111(代) FAX 089-963-3146

- 教育開発部長挨拶 …… 1
- 令和元年度調査・研究発表会について …… 1
- 令和元年度調査・研究発表会発表の概要… 2・3
- 1年間の研修を終えて …… 4
- 令和2年度研修講座の紹介 …… 4



「学び続ける教員像の確立と働き方改革を目指して」

教育開発部長 村井 成己

本センターでは、今年度も基礎研修をはじめ、専門研修、課題別研修、出前講座などを通して、多くの先生方が熱心に研修に取り組む、「学び続ける愛媛の教員」の姿が見られました。県教育委員会が、平成30年2月に策定した「校長及び教員の資質の向上に関する指標」を基に、教員のキャリアステージに応じた資質の向上を目指した研修体制が定着しようとしています。

昨今、教員の長時間労働の現状が明らかとなり、働き方改革に向けた取組が進められています。文部科学省では「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」を策定し、時間外勤務の上限の目安時間を、原則として月45時間、年間360時間以内と決めました。働き方改革の実現は、学び続ける教員像の確立に向けた研修の充実と相反する方向性を感じる先生方もいるのではないのでしょうか。

私は、働き方改革と研修の充実は車の両輪のような

関係であると考えます。働き方改革を実現することによって、研修を充実させることができ、働き方改革を実現するためには、学び続ける教員像の確立が重要な役割を果たすのです。変化の激しい現代社会の中で、学校が抱える課題は複雑化・多様化し、教員の忙しさは増すばかりです。様々な課題に対して適切に対応し、指導できる教員の資質の向上が必須です。

小学校では、来年度から外国語活動・外国語科、更にプログラミング教育が必修となり、中学・高校においても、新学習指導要領が、順次、全面実施されます。新学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」が重要とされ、学校・家庭・地域が一体となった「チームとしての学校」が求められています。昨年、開催されたラグビーワールドカップでも、「ONE TEAM」をテーマに日本代表が活躍し、様々な枠を越えたチームワークの力強さに感動させられました。

本センターにおいても、学校や教育のニーズに応じて、効果的で効率的な研修の改善・充実を図り、先生方の支援に努めます。今後も、未来を拓く子どもたちの愛顔のため、スクラムを組んでまいりましょう。



令和元年度調査・研究発表会について

令和2年2月7日に、小学校、中学校、県立学校、関係機関等から115名の参加者を迎えて、令和元年度調査・研究発表会を開催しました。研究主題「輝く愛顔あふれる学校教育への総合的な支援」の下、「教員の資質向上」「喫緊の課題の解決」「新学習指導要領の理念の具現化」の研究の柱に沿って、5本の研究発表を行いました。さらに、長期研修生2名と短期研修生3名の発表を含め、全部で10本の発表を行いました（詳細は次ページ以降に掲載）。

その後、青山学院大学コミュニティ人間科学部学部特任教授の耳塚寛明先生に、「高い成果を上げている学校に学ぶ 学力の社会学」と題して講演を行って

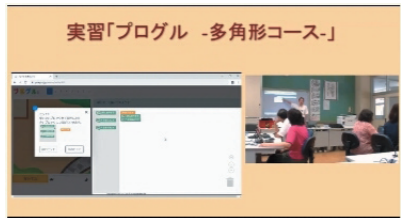
いただきました。理論や実証的なデータに基づいて、「だれが、なぜ学力を獲得するのか」について御教示いただくとともに、「高い成果を上げている学校」や「成果を上げつつある学校」の事例を御紹介いただきました。参加された先生方からは「『学力向上』というゴールに向かって『今、何をすべきか』ということ、明確な分析に基づき、説得力のある語り口で伝えていただき、たいへん刺激的な講演であった。」などの感想をいただきました。



情報教育室(発表1)

ウェブサイトを活用した教員研修の在り方に関する研究「えひめプログラミング教育ホームページ」の活用を通して

「えひめプログラミング教育ホームページ」の更なる充実を図り、小学校におけるプログラミング教育の必修化に備えるための学校支援の方法について、研究を進めてきました。その方法として、オンライン研修動画とその研修資料を追加した新たな教員研修モデルとなる「プログラミング教育研修Webパッケージ」を作成しました。このパッケージを活用すれば、研修のための講師を必要とせず、教員に負担をかけることなく研修を実施することができます。全ての小学校教員が、安心してプログラミング教育を推進できるように支援していきたいと考えます。



オンライン研修動画

教育相談室(発表2)

不登校生徒への支援の在り方に関する研究

年々増加傾向にある不登校児童生徒への支援を充実させ、不登校生徒の社会的自立と学校復帰への促進を図るためには、「チームとしての学校」の機能を生かした取組が必要であると考えました。1年次には、実態調査を基に不登校生徒支援シートの作成及びケース会議の充実に取り組みました。2年次である本年度は、不登校生徒支援シートを改善し、ケース会議を充実させつつ、その取組を「ケース会議のススメ」としてまとめました。取組の結果、状況が好転する生徒もあり、一定の成果が見られました。また、不登校児童生徒を支援する際に役立つ資料「不登校児童生徒支援のツボ」を作成しました。



特別支援教育室(発表4)

特別支援学級における自立活動の指導に関する研究

平成30年度にスタートした本研究の1年次は、特別支援学級担任の自立活動の指導の指針となる「特別支援学級における自立活動ガイドブック(案)」を作成し、協力学校の先生方の意見や愛媛大学苅田准教授からの助言を基に内容の改善を図りました。2年次である本年度は、協力学校における意識調査と実践事例を通して、改善したガイドブック(案)が実際の指導で役立つものなのかを検証しました。意識調査では、ガイドブック(案)活用前後で明確な意識の変容は見られませんでした。指導上の困難さは軽減することが分かりました。また実践事例では、担任が指導する上でガイドブック(案)を効果的に活用しており、事例対象児童生徒の望ましい変容が確認できました。このことから、ガイドブック(案)の有用性を裏付けることができました。今後は、完成したガイドブックを本センターホームページに掲載しますので、是非御活用ください。

企画開発室(発表5)

指標に基づいた効果的な研修の在り方に関する研究「指標確認シート」の活用を通して

指標に基づいて、教員が自らの資質・能力の向上を図るため、自己分析や目標設定等に役立つ「指標確認シート」を開発し、本センターの研修講座や協力学校での校内研修支援で活用するとともに、各学校で活用できる校内研修パッケージを作成しました。開発した「指標確認シート」は「具体的な姿」を示したことで、指標に示された資質・能力を理解する上で、多くの教員に効果的に働いたことが確認できました。また、「指標確認シート」を活用した研修は、自己分析や目標設定、振り返りを行う上で効果的であり、受講者の資質・能力の向上につながりました。本研究を通して開発した資料は、来年度の「出前講座」で使用するとともに、校内研修パッケージとして本センターホームページに公開し、各校がダウンロードできるようにする予定です。

教科教育室(発表3)

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する研究-教科等横断型教材の開発・活用を通して-

(1) 教科等横断型教材の開発について

新学習指導要領では、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を目指し、学びの質を高めるよう授業改善が求められていることから、教員研修のほか、教材開発を通して授業改善への支援を図りたいと考え、2か年継続の研究に取り組むこととしました。

右記の通り、小学校国語科、算数科、社会科、家庭科、外国語活動・外国語科において、カリキュラム・マネジメントの視点から「他の教科等の既習事項や学習内容と関連付けた授業及び単元例」となる教材の開発を行い、2年次となる本年度は、教材の有効性の検証と更なる改善に取り組みました。今後は、キャリアアップ研修等で紹介や解説を行い、幅広く研究成果の活用促進を図りたいと考えています。

本センター研究の成果について

本センターの研究成果物はホームページよりダウンロードすることができますので、是非、御活用ください。アドレス <https://center.esnet.ed.jp/>

令和元年度調査・研究発表会発表の概要

〔研究主題〕 輝く愛顔(えがお)あられる学校教育への総合的な支援



(2) 外国語活動・外国語科と算数科(小学校)

外国語活動・外国語科の授業における英語表現への慣れ親しみや定着、算数科の既習事項の復習につながるような教科等横断型教材を開発しました。各教材ともゲーム的な要素を持たせ、児童が楽しく競い合いながら学べるよう工夫しています。(教材は11種類)

研究員の所属校第6学年を対象に、開発した教材を用いた授業実践を行い、その有効性を検証したところ、特に数や図形の英語表現に対する定着度が高かったことや、児童の学習意欲に高まりが見られたことから、「主体的な学び」において一定の成果が期待できる結果となりました。今後は、高学年で学ぶ算数科の内容に英語を取り入れた教材の開発も検討したいと考えています。



教材:図形バスケット

(3) 社会科と国語科(小学校第3学年)

社会科「店ではたらく人」と国語科「話す・聞く」の内容での教科等横断型教材を開発しました。本教材を小学校キャリアアップ研修Ⅱで活用し、有効性について受講者間で協議を行いました。本教材は、社会科・国語科が目指す児童の姿の実現に加え、課題解決学習の過程における「深い学び」の実現も期待できるとの回答を得ることができました。

(4) 家庭科と国語科(小学校第5学年)

家庭科「食べて元気に」と国語科「書く」の内容での教科等横断型教材を開発しました。本教材を課題別研修で活用し、有効性について受講者間で協議を行いました。本教材は、家庭科においては課題解決学習の場面での相手に伝える活動の充実が、国語科においては書く活動に対する学習意欲の高まりが期待できるとの回答を得ることができました。

平成30年度短期研修生(発表7-1~3)

ウニ後期発生期の飼育方法の確立を目指して

松山中央高等学校 近本 恭子

ウニの初期発生に関する生徒実験においては、従来方法では稚ウニにまで成長させることが難しいという課題がありました。そこで、稚ウニの前段階であるプルテウス幼生期の飼育条件(水温、密度)や、添加する変態誘導体の種類を検討しました。その結果、低密度で飼育することや、チロキシンなどの変態誘導体の添加が有効であることが分かりました。

有機化合物の識別・構造決定実験授業の研究

新居浜西高等学校 柏木 康彦

有機化合物の識別・構造決定実験において、生徒自身が、より高い精度かつ短時間で、容易に実験を行うことができる実験条件、方法を研究しました。

識別精度の高さを保ちながら実験をマイクロスケール化することにより、1時間の授業で、実験を完結し結果を考察することができるため、実験内容の深い理解につながることを期待できます。

ばねを用いた力学的エネルギー保存の実験における測定精度に関する研究

西条農業高等学校 越智 謙太

力学台車とばねを用いた力学的エネルギー保存の実験における、誤差が生じる原因と誤差が少ない実験条件の特定を目的に研究を行いました。誤差が生じる最も大きな原因は力学台車とばねの衝突であり、一般に誤差の原因と考えられている記録テープによって生じる摩擦の影響は少ないことが分かりました。

令和元年度長期研修生(発表6-1・2)

「配慮」「主張」に視点を当てた児童の人間関係形成能力の育成に関する研究

一養護教諭と学級担任が連携して行うソーシャルスキルトレーニングの実践を通して

長期研修生 古田 まみ

児童の人間関係形成能力の育成のために、「配慮スキル」「主張スキル」に視点を当てたソーシャルスキルトレーニングを取り入れたプログラムを作成しました。養護教諭と学級担任が連携し、細やかな支援をしながらプログラムを実践したことで、児童のソーシャルスキル尺度や自己評価が向上しました。また、児童の感想からも意識の変容が見られました。さらに、学校環境適応尺度の「友人サポート」因子と「向社会的スキル」因子に向上が見られ、本実践の有効性が示されました。

数学科において知識の理解の質を高めるための学習指導の在り方

一ウェブシステムを活用した反転授業を通して

長期研修生 福住 公宏

既存の学習と新しく学習する内容との関連付けを考慮した予習動画を作成しました。そして、作成した予習動画を動画投稿サイトにアップロードし、生徒がいつでも視聴できる環境を整えた上で、ウェブシステムを活用した反転授業を実施しました。前もって学習内容を把握して授業を受けた結果、互いの知識をすり合わせながら、生徒同士の協働学習が活発となりました。また、深い学びへつなげられるとともに、知識の理解の質を高めることができました。



予習動画

1年間の研修を終えて



〈初任者研修〉

「初心」

砥部町立砥部中学校
教諭 片岡 大輔

今年は、自分の学級経営や生徒指導等を見つめ直す一年になりました。特に授業展開については、時間や場所を効率よく活用できるよう工夫しなければならぬことを学び、実践に生かすことができました。活動する時間や場所が確保できたことで、現在では、「できた」、「分かった」という声が増えてきました。また、楽しく笑顔で学習に取り組む生徒が多くなっていることを実感しています。

これからも、研修に携わってくださった方々への感謝を忘れず、たくさんの生徒の前で授業ができていく幸せをかみしめながら、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。また、初心を忘れず、常に自分を振り返り、授業力、学級経営力など教員としての資質を高めていきたいと思っています。



〈キャリアアップ研修Ⅱ〉

「学び続けることの大切さ」

今治特別支援学校
教諭 鎌倉 真知子

採用から10年が経ちました。その間の社会情勢の目まぐるしい変化により特別支援教育の課題や在り方が問われ、新しい理念が生まれてきています。私たちには、そのような変化に対応していく力と教育の不易の部分大切にできる力が求められていると思います。

キャリアアップ研修Ⅱでは、教育の基本について改めて考え直したり、これからの特別支援教育についての知識を得たり、思いを深めたりする機会に恵まれました。また、受講者同士で協議する機会も多くありました。同じように経験を重ねてきた先生方の考えを聞いたり、アドバイスを頂いたりすることは、良い刺激となり、自分自身の気持ちを高めることにもなりました。経験を積むと同時に、これからも主体的に学び続ける姿勢を持ちたいと思います。

令和2年度研修講座の紹介

専門研修

専門研修は、本センターの特色を生かした特定分野における専門性を高める研修で、21講座を実施します。新規講座のうちの一つの内容を紹介します。

【日本語指導】外国人児童生徒との共生

外国人児童生徒の増加に伴い必要性を増す日本語指導について、各校での実践内容を協議し、日本語指導への理解を深め、外国人児童生徒への指導力向上を図ることを目的とした講座です。

外国人児童生徒への教育の現状と課題や日本語能力の評価判定方法と指導について、講義や演習を通して学びます。また、研修内容を活用した各校での取組の計画を、協議を通して行います。

課題別研修

課題別研修は、教育課題への対応と職務実践力の向上を図る希望研修で、9分野53講座を実施します。新規講座のうちの一つの内容を紹介します。

【特別支援教育】特別支援教育におけるアセスメントと指導・支援

知能検査の結果を分析し、どのように解釈して実際の支援に生かしたらよいかを学びます。さらに、複数の検査を組み合わせた多面的・総合的な解釈と支援への生かし方についても学び、実践的な指導力や専門性の向上を図る講座です。

※講座についての詳細は、3月に各学校に送付します「研修のしおり」を御覧ください。

〈交通安全推進メールマガジンの配信について〉

これまで、各校が取り組まれた交通安全推進研修会の取組事例や交通安全に関するサイトの情報等を紹介してまいりました。今後も有益な情報の発信に努めますので、教職員の交通事故・交通違反の撲滅を目指して、交通安全研修に積極的に活用していただければ幸いです。



所報「育心拓夢（いくしんたくむ）」について

この言葉は本センターが現在の地に移転した昭和57年頃、当時の所員が作った言葉で、敷地内にある石碑に刻まれています。「総合教育センターでは、子どもたちが確かな学力を身に付け、豊かな『心を育む』こと、また、自らの力で未来への『夢を拓く』ことができるように学校支援を行う」という強い思いが込められています。